



校長室より



令和5年 9月15日

No.11

9月11日（月）に開かれた第二回学校運営協議会では、「みはまの児童生徒たち、こんな体験できたらいいなあ」をお題として委員の中で語り合いました。職場体験の充実、地元の産物や自然、芸術体験の導入など貴重な意見がたくさん出ました。詳細については、後日、会議録をアップさせていただきます。

地域の産物にかかわる話の中で、美浜町には「煙樹ヶ浜の松きゅうり」が有名ですよと話題になりました。皆さんご存知でしょうか。美浜町の誰もが「自慢できるもの」としてあげるのは煙樹ヶ浜の松林です。長さ4.5キロメートルに及ぶ大松林は、近畿最大の規模を誇り、その景観は煙樹海岸県立自然公園の中核となっています。地域の防災資源としても高く評価されています。煙樹ヶ浜の「黒潮からの風と太陽」自然いっぱいになった松葉（落ち葉）をふんだんに利用した松葉堆肥で育ったのが「松きゅうり」です。今年の秋には、美浜町のふるさと納税の返礼品として発送される予定にもなっています。今後、児童生徒たちも特産品の栽培等に触れる経験ができればいいですね。



みはまの教育活動の中で、県立自然博物館の協力による取組は、児童生徒たちの体験活動を豊かなものにしてくれます。9月27日（水）、高等部の総合的な探求の時間で、水産物の宝庫である美浜町の三尾漁港で水生生物を調べる自然科学講座も予定しています。毎年、海の生物を直接持参していただき、病棟に入院している児童生徒たちが生き物と触れ合うことができる「移動博物館」の取組も待ち遠しい取組の一つです。

9月に入り、和歌山病院に入院している一学部の児童生徒たちが、本校の教室に通学してきての学習が始まりました。まだ入院生と通学生の直接的な交流は控えていますが、学校に響き渡る声が増え、活気が出てきています。

玄関を入ってすぐの職員室前廊下に、二学部の児童生徒が自分に関する情報を自分からキャッチするための掲示板が設置されました。各学年の情報、班別やクラブ活動の情報などが掲載されています。情報を主体的にとりに行く姿勢は、今後の生活できっと役に立つことだと思います。実り多い予感がする二学期にワクワクしますね。

